

は津波と地盤沈下で高さが半分となり、大阪市の天保山(4・5層)を抜いて日本一低くなった。

仙台リサイクルネット

生ごみ減量化 取り組み報告

設立20年記念交流会

市民団体「仙台生ごみリサイクルネットワーク」の設立20年記念交流会が7日、仙台市青葉区の市市民活動サポートセンターであり、市民ら約50人が今後の生ごみ減量化を考えた。

ネットワーク会長の山内文男東北大名誉教授は講演で「よく20年も続いた。市のサポートに感謝する」と強調。市民の半分は集合住宅暮らしだとして、生ごみ

生ごみ減量化の取り組みが報告された交流会



の堆肥化を進めて「ベランダ農業」の提唱に力を入れる考えを示した。

地域での事例報告もあった。徳田実事務局長は太白区ひより台で昨年度始めた生ごみ堆肥化事業を紹介。バケツ型容器などを配った20世帯が生ごみを入れ続けるところ、臭いも害虫もほ

ぼ出なかつたことを挙げ、「本年度は実施世帯を80に増やしたい」と話した。

ネットワークは1999年に発足。市と連携し、市民向けの堆肥化講習会を開くなどしている。

海辺の環境保全 次世代に継承を

名取でフォーラム

海岸環境保全の現状と課題を話し合う「ふるさと海辺フォーラム」が6、7の両日、名取市の名取トレイルセンターを主会場に開かれた。

7日は東北学院大の平吹喜彦教授(景観生態学)が約20人を前に「大地震・大津波で被災した砂浜海岸が教えてくれたこと」と題し